

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
A	環境	並流する用水堰へのゴミの投げ入れ等の行為を防ぐ呼びかけを。
A	環境	用水堰を「コイの里」としているが、ハヤの住む水が汚されている。
A	その他	宮ヶ瀬ダムは撤去しても良いのではないか。
A	環境	宮ヶ瀬ダム 自然環境の悪化が顕著である。動物たちが山を追われて里地に来て、被害が増えている。
A	治水	ダム下流 ダムの水が余っているのだから、放流水量の日量を増やし、フラッシュ放流の回数を増やす。H19年の台風では、河原がきれいになっている。その時の水量を参考にしては。
A	治水	ダムによって大きな洪水被害等の心配が減ったと思う。
A	治水	宮ヶ瀬ダム もともと水量が少ないのであれば、治水としての役割の効果はないのでは。
A	利水	宮ヶ瀬ダム 過大な水需要計算で作ったが、神奈川県民にはほとんど使われていない。水道水につけが回っている。
A	利水	フラッシュ放流などの運用は今後の課題(まずは事例把握)
A	利水	ダムの運用により、渇水の心配が減った。
A	環境	可能な限り放水量を多く(大雨時)
A	環境	フラッシュ放流を度々行ってほしい。
A	環境	田代のカワラノギクは、花は散っていたが、咲いていたころは見事でした。多くの人に見てもらいたい。
A	環境	カワラノギクの再生は良い面もある一方で、不自然(人工的)なレキの置き方には違和感があった。
A	環境	カワラヨモギ、カワラナデシコ、カワラサイコ、カワラアカザ、カワラケツメイ、カワラハハコもあるよ。
A	利水	カワラノギクの生息環境状況が可能なところ(近い環境)には再生していったら。
A	環境	流水はきれいなので、水質を悪くしないようにすることは重要。
A	環境	生物多様性の生物の保存に関するものを河川整備に入れる(里山、里海、里川、里地に焦点を当てる)
A	治水	地球温暖化による河川整備計画に入れるべきだ。今後100年先以上新しい河川整備計画を含める。
A	治水	計画高水流量は以前の計画が変更していないのか(相模川、中津川について)
A	環境	樹林化が進んでおり、カワラノギクのような事も必要だと思う。
A	環境	水辺に近づける対応は重要(ハリエンジュの伐採etc)
A	環境	中津川のカワラノギクの分布図を描く。 相模川・中津川流域のカワラノギクの分布図を示してほしい。
A	環境	町域の調整区域の住宅は下水道がないため、垂れ流しで水質汚染の一因となっている。
A	環境	人為的に流路変更をして河川敷のリフレッシュのひとつに。
A	環境	地元の自治体、団体等との連携
A	環境	中津川河川敷の動物相、植物相調査を実施してほしい。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
A	環境	八菅橋上流域まで、イノシシやシカ、ヤマビルの生息域になっている(夜間に周辺に出没)
A	利水	八菅橋 オーバーユースで河原が固まってしまっている。車の利用の仕方を変える必要がある。
A	環境	平山橋と八菅橋のカワラノギクの保全をやってほしい。大事にしてほしい。
A	環境	樹林化対策。
A	環境	中津川に水を戻すため、宮ヶ瀬放流量を見直す。
A	環境	出水時にダム流入量をそのまま下流に流す。 整備計画中津川の最大の目玉 ※被害の出ない量100m ³ /s～600m ³ /sの間 ※水利権者との調整 ※ダムゲート操作規則の変更 ※深掘れ箇所の人為的修正 ※毎年でなくても良いが台風出水等にあわせて行なう。
A	環境	深掘れ、みお筋の固定化した箇所を明らかにし、復元を検討する。
A	利水	水需要の必要最小限を明らかにし、浮いた水源分の活用を検討する。
A	その他	空間利用区分はきちんと守り、専有許可を安易に出さない。
A	環境	ゾーニング、水際の保護を明示する。
A	環境	カワラノギクを将来生息できる種に品種改良する。 水に強い、寒さ暑さに強い等の環境に強い品種に改良した種をまく(稲の品種改良のように)
A	環境	カワラノギクの旧自生地は、復元の可能性が最も高いところなので優先的に復元する。
A	利水	草刈り後の対策を246号の場所のようにした方が良い(れき河原)
A	利水	246号下 経過観察が必要であるが、良い実験例である。評価したい。
A	治水	才戸橋・246号 ハリエンジョの伐採については中長期的な視点での対策も必要(きりが無い)
A	環境	国道246号(18～19年度) 周辺のアリエンジョを伐採で除去して、19年度レキ河原ができているのは良いが、右岸も川の水を流し、中州を作って同様なことをしてレキ河原にならない?
A	その他	宮ヶ瀬ダムのパンフレットP04、P05、P17の内容は一方的すぎる。次に作る前に市民団体と話し合いを。
B	環境	理想的なフラッシュ放流を見極めるために、数十m ³ /s～数百m ³ /sの実験を試みる。
B	環境	フラッシュ放流にみんなで立ち会う(0m ³ /sがどの程度の流れなのか知る(体感する))
B	環境	ダムの水の放流の仕方を研究して、丸石河原を復活させる研究に予算をつけるべき。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
B	環境	河原の陸地化を防ぐために、今行われているような善意による努力では無限地獄。ダムの運用を工夫することで、抜本的な解決はかれないか。
B	環境	自然の力を利用していく工夫を。
B	その他	ダムができて、安定した河道になったので、コントロールポイント(淵になるところ・河原になるところ)を決め、それに向けた造成・工事だけ行なう。
B	環境	河川荒廃の打開のためのきちんとした計画を立てて実施することが、今後の河川行政か。
B	その他	以前に作成したゾーニングは、現状を踏まえて見直す。
B	環境	タヌキのフンに感激。野生小動物と共生できる川辺に。
B	環境	川とはなにか、もう一度社会全体で考え直してかかりたいですね。
B	環境	NPOの河川整備活動は、カワラノギクの除草だけでも維持が大変。行政の的確な支援なくては続かない。
B	環境	県の河川敷の整備は素晴らしいのですが、あとどうするか問題。大放水計画が必要。
B	環境	サイクリングロードなど、川面を見て市民が楽しめる川辺作りをしてください。
B	環境	川原(河原)への自動車乗り入れを制限したら・・・。
B	治水	大雨降水時に大量の水を放出し河原を再生する案。政策論争を県議会で行い、新しい法令を作りましょう。
B	環境	河原を試験的に造成して、ノウハウを積み重ねる。 候補地:八菅橋付近
B	環境	八菅橋左岸上下流 空間区分ではDとなっているが実態はBである。従って、空間区分を見直すか利用を規制するかして整合させるべき。
B	環境	河川敷の再生に、中津川橋左岸のように斜めに整地する方法が自然再生に良い。
B	環境	木が繁茂しているからといって、根こそぎ取ってしまうことは避ける。 →パッチ状、帯状に残す。
B	環境	2m ³ /sは自然維持日常放流量として少なすぎる。
B	環境	才戸橋左岸上流 ハリエンジュなどを伐採する際は全て撤去するのではなく、流れに支障のない程度に間引く方が好ましいのではないか。また、水面に向け斜面をつけ小洪水でもかく乱を受けるようにするとよい。
B	環境	ダム放流量の最大100m ³ /sは効果からみて見直して、もっと自然再生に寄与する量に増加すべき。
B	環境	洪水時の自然の力を利用して自然再生を行う施策(市民がどう協力できるか)検討すべき。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
B	環境	中津川橋下流の河川敷の清掃は地元住民の協力により行なったという事で賛成。その対岸の清掃していない場所と比較して、その効果は歴然としている。
B	環境	左岸の河川敷の再生はすばらしい(市民と行政協力の見本となる。)
B	環境	中津川橋下 ゴミが非常に多い。 ボランティアなど組織して片付けましょう。
B	環境	246号付近の下流右岸の厚木市の管理である河川の樹林化が進んでいたが、鳥が多くいて、サンクチュアリーのようになっていた。
B		河川管理の抜本的改革 ・定期的な大放流でかく乱を起こして、河川敷を元のようにする。 ・そのために、河川管理(治水上の問題)の検討、放流の実験を行う必要がある。 当面 ・住民側で協力して、草刈りなどを行い、行政側もそれをサポートしていく(川の環境を良くするために努力する。) ・生物の生息地についても当面守っていく。
C	その他	河川の利用については、市民町民の意向と自然保護再生との調和が大切と考える。
C	環境	全体的に水量を増やす。8m ³ /s→10m ³ /s
C	環境	全体的に外来種の繁茂が目立つ→100m ³ /s放流が原因か？
C	治水	宮ヶ瀬ダムにより治水安全度はかなり高いと思われる。 今後、一部弱小堤部を改修すれば、治水上は問題ないと思われる。
C	その他	高水敷の利用があまりないように感じた。ゾーニングの見直しも現状を重視した形をとるか？
C	環境	草木が繁茂し、人を寄せ付けない場所が多い。 人の入れる河川づくりをしてほしい。
C	その他	田代 多様な用途として河川と自然と人が共生している。 こういった場所を増やしてほしい。
C	環境	ハリエンジュが伐採されて良かったが、川下の河原は車がいっぱい。 本来は石ころ河原が自然なはずなのだから、カワラノギクのところ に石ころをいっぱい入れてください。ゾーニングが少しおかしい、水が きれいだったがもっとも水の流れを流してください。
C	その他	田代公園付近 河川の現行、どの様に誰が中心となって管理しているか。当事者さんがいれば良かった。聞き、参考にしたかった。
C	その他	中津川河川敷に小水路を作り、小魚や生物が生息しやすい環境を整備してほしい。
C	環境	Dゾーンなのに車が入り、たき火のあとの炭や焼け石、さらに石がそのままになっている。 車を進入禁止にしてはどうか？丸石がしずんで平地になっているのはおかしい。 民間のイベントは許可しないでほしい。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
C	環境	才戸橋上流のようなレキ河原化を進め、人が河原に近づけやすくする。
C	環境	CゾーンなのにBゾーンなみの利用で残念。車の進入禁止して、本来のCゾーンに戻してください。
C	環境	馬渡橋から上流のゾーニングが未定。今回の整備計画で決定すべき。
C	環境	現行の空間管理計画のゾーニングと利用状況には大きな隔たりがある。
C	環境	土砂検討会では中津川のみお筋の固定、河床の樹林化、河床のアーマーコート化がテーマとなっていないので、中津川のこれらの問題をテーマとしてください。
C	その他	ハードな事項から河川の維持管理に整備計画のスタンスを変える。
C	環境	八菅橋周辺はD(自然保存)ゾーンですが、実態はBゾーンになっています。車の規制が必要です。
C	利水	宮ヶ瀬ダムからの放流量は160m ³ /sが限度になっているが、放流量を多くして河川のかく乱を行なうこと。
C	利水	宮ヶ瀬ダムの水利権水量を一部河川水に戻して水量を増やす。
C	その他	ダム～馬渡橋の間はゾーニングしていないが、利用を区別した方がよい。
C	その他	ゾーニングの区別がされているが、現場の状態はC、Dゾーンで区別が分からないところがある。
C	その他	河川敷の車の乗り入れ区域を決めた方がよい。 川の近くまで入れない。
C	その他	バーベキューの後の炭の残りがあ。利用者のモラル(ルール決め)
C	その他	中津川橋下流 ホームレスに退去してもらおう。
C	環境	中津川 豚小屋の匂いの対策を他の部署で検討していただきたい。
C	環境	平山橋上流 カワラノギクの保全場の周りは野原になっている。 みお筋を増やして細流を作る。
C	環境	河原の樹林化が多い。野原に近い。
C	環境	金田地区のように地域で河川に関心を持ってもらい、地域での利活用を他の地区でも広げてほしい。
C	環境	中津川橋下に廃棄ゴミが多い(不法投棄)
C	環境	みお筋がないので固定されて深掘れが進んでいる。
C	環境	H18年のときは伐採したばかりであったが、シナダレスズメガヤが増えていて驚いた。大きくなると引き抜くのに大変だから、小さいうちに引き抜いてほしい。木を伐採するとき、十把一絡げに切らないで川に昔からある木やめずらしい木は残してください。橋の下にゴミが散乱していた。残念である。
C	環境	カワラノギク等々について年明けから年間の管理方法について詳しく聞けたら！
C	環境	本流と河原の段差をなくして、増水時の流れを広げるようにする。 (水際が緩やかな傾斜となるようにする)
C	治水	水量が少ない(ダムの放水量を増やすことを考える)

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
D	利水	流量回復の意見が多いが、利水者との協議が必要。現実的には神奈川の水がめとして期待されている以上難しいのではないか。
D	利水	宮ヶ瀬ダムの水をもっと放流すべきではないか。
D	環境	フラッシュ放流等を通じて、水際に近いところだけでもカワラノギク等が生育できる環境とすべき。
D	環境	バーベキューの跡が残っていてマナーが悪い。
D	環境	カワラノギクの復元にはもっと行政が知恵を使うべき点があると思う(近場に水を流すようにするとか)
D	環境	田代運動公園の河原のオギを刈り取り、目的も不明の中で公費を費やして広大な広場を造成したことは、環境破壊そのままの行為であり、公務に就く者として謹んで頂きたい。
D	その他	河川利用者の「たき火」の跡が気になった→片付けの徹底
D	環境	田代 ハリエンジュからカワラノギクへ、今後の放流量で環境が良くなる可能性があれば、維持努力への負担が減るのでしょうか？
D	環境	河原に入っている自動車に規制を加えるべき(要駐車場)
D	環境	中津川左岸 河川敷のオーバーユース。動植物が生息できる環境(丸石河原)への回復が課題。
D	その他	自動車の乗り入れ規制をかけるべき。
D	その他	首都圏では、広大な面積を確保するのは難しく、一定レベルでの河川敷の利用(人工的)はやむを得ない。ゾーニングやルール作りが必要。
D	環境	堤防や河川敷の草刈り時期について、オギ原を利用するカヤネズミの繁殖時期5~11月には全面的な草刈りをしないようにしてほしい。
D	環境	現実的には、出水によるかく乱は難しいため、外来種(ハリエンジュ)対策は地元と協働し、継続的な取り組みが必要。
D	環境	坂本・才戸橋 今後、国道246号見学地の様な回復を期待。
D	環境	国道246号橋下右岸のゴミが多く目立った。左岸川原の再生はすばらしかった。
D	環境	左岸と同じようにレキ河原にしたら良い。
D	その他	民家の竹林が川原にあった。
D	環境	国道246号下 ハリエンジュを伐って少しずつ回復している姿がみられて良かった。
D	環境	橋の下にゴミが多い。
D	その他	ホームレスの人が多い。
D	その他	河川敷の部分は今後も残るものであるから、地域毎にどのような活用方法にしていくか施策を決めるべきである。
D	その他	全体的に堤防上の道路は廃止できないか。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
D	環境	中津川及び相模川とも細粒化が進み、河床や河原もタイル状に硬化して、生物の成育が阻害されている。その改善のため、流量に応じた河川改修をして頂き、誰もが安心して安らげる所にして頂きたい。
D	意見書	I ☆昭和20年代頃の自然環境にあこがれている人達(子育て中の親や団塊世代高齢者)が多くなった感じがする。 ・自由に遊べる場所が何処にでも散在していた。 ・都市化が進み道路は危険、広場は住宅地となり、学校の校庭利用も制限がされたり、子供たちの居場所が非常に少なくなってしまった。 ・今振り返れば、河川敷や里山、空地は楽しい場所で子供たちの人間形成に大きく寄与していた。
D	意見書	II 河川の遍歴 ・中津川は、宮ヶ瀬ダムが治水目的で各種用途などのため構築され、ダム下流の水流量が激減した。 ・河川敷が拡大し、雑草が繁茂し、10年後にはアカシア、クルミなど樹木が目立つようになった。 ・粗大ごみなどの捨てられやすい環境になってしまった。 ・水棲生物の棲みにくい河川環境になってしまった。 ・時々ダム水の時間観光放流や河川環境向上放流の3~4回/年実施 ・河川敷面積拡大により管理の行き届き難いエリアが目立つようになってしまった。
D	意見書	III 今後の河川管理に向けて ・粗大ごみ搬入防止策として監視カメラ設置(ソーラー電源や水力ミニ発電など) ・河川敷(陸地部分)の活用方向をどうするか。 ①[平地部と水路やミニ雑木林ゾーン混合の憩いの場づくり等] ②[生物多様性の保全配慮 自然学習の場 ミニ運動場 地域交流の場 非常災害時利用 ほか] ・河川の擁壁部(傾斜地)の保全方法→環境対策として脱コンクリ(将来の産業廃棄物発生防止) ・河川管理基準の見直し→現場に合わせた柔軟運用化の推進 例:[堤防道路の傾斜方向を河川側にも雨水などが流れるようにする。

第4回 相模川ふれあい巡視(中津川) H21. 12. 6

※意見・提案は原文のまま記載してあります。
 ※一部、読み取れない部分は「●」としてあります。
 ※ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
D	意見書	中津川河川敷牛久保用水放水路の「親水広場」化検討案 1.水棲生き物がいる。 2.自然環境に配慮した水路構造である。 3.水路への出入りが容易である。 4.岸辺にヨシが繁茂している。 5.水路に梅花藻がある。 6.バレーボール大のような石が多くある。 7.傾斜地等に発泡マットなど張り崩れ止めがされている。 (スキー場にあるマット) 8.水辺との境は木杭利用。 9.水路への折口は右岸左岸に各一箇所位(≒10m/箇所) 10.水路を生かしてミニ発電、ソーラー発電、風力発電で大時計、 ハイブリッドまたはバイオトイレ
D	意見書	効果 ☆人が来れば雑草エリアも低減する。 ☆親子の遊び場として利用できる。 ☆水辺の環境学習が可能。 ☆河川敷利用者の拡大啓発に繋がる。 ☆生物多様性の推進
D	意見書	中津川河川敷地活用方策検討部会によるイメージ図
その他	環境	巡視の結果、樹林化の進展、礫河原の減少、 滞筋の固定化が中津川の問題点として挙げられた。
その他	環境	樹林化は好ましくないとして意見が一致した。 一方で樹林化やタヌキ等の生息範囲拡大が好ましくない ことを一般の方々に理解いただくためには、川は 本来どのような姿のものかを十分に説明することが 必要である。
その他	環境	樹林化に対する対症療法を実施した複数の現場を 見ることができた。 才戸橋では水平に整地されているが、中津川橋では 緩斜面の傾斜が礫河原の再生につながっていた。 このような工夫を行うことが大事である。
その他	環境	ダムと下流河川の関係が抜本的な課題として挙げられる。 フラッシュ放流が行われ、川の中の環境の改善に一定の 効果があるが、河川敷の環境を改善するまでの 効果はない。このことについて、放流量を増やすための 課題解決、河川敷の環境改善につながる工夫などを考える 必要がある。
その他	環境	河川敷の樹林化とそれに関連した問題は大きな課題であり、 いろいろな方面から考えなければいけない。実際の現場と 対策について巡視を行ったことで今後の議論の参考に なると考える。